

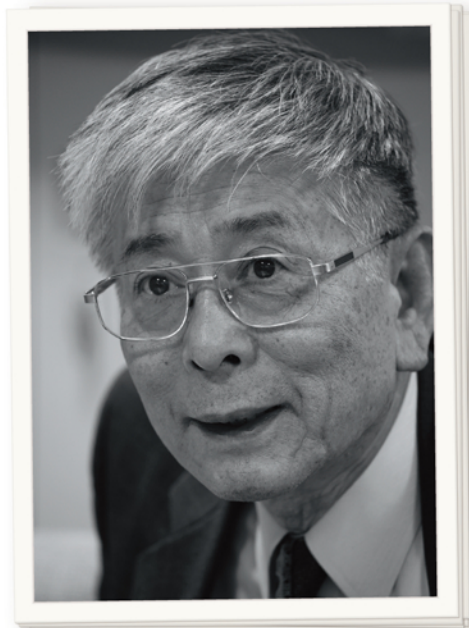
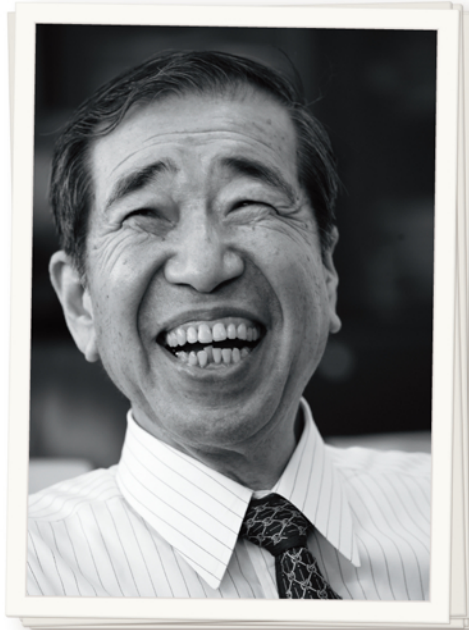
— Scientist Library_01

— Scientist Library_02

— Scientist Library_03

— Scientist Library_04

Scientist Library_03 岸本忠三(→P248)



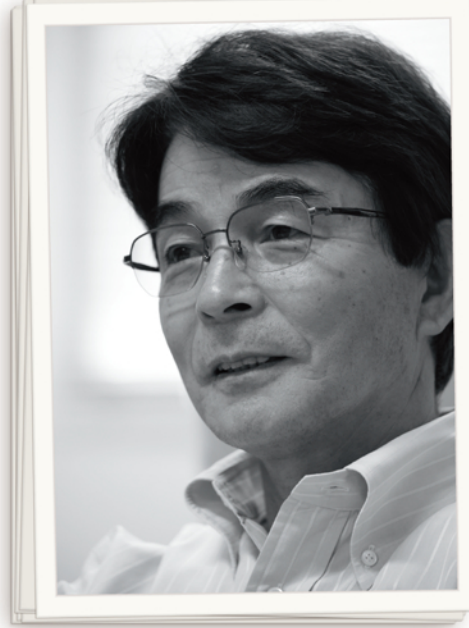
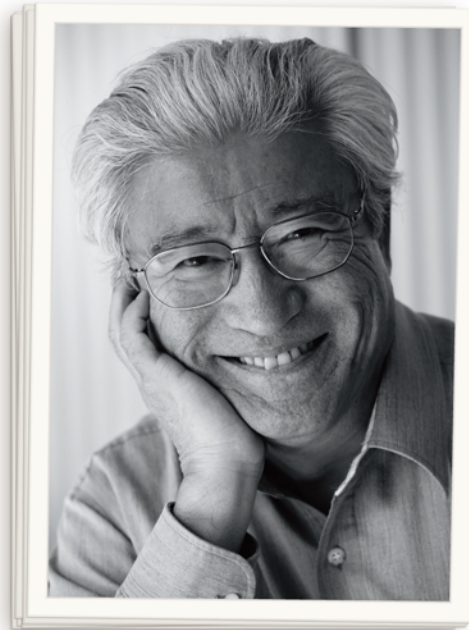
Scientist Library_04 和田英太郎(→P268)

独自の軸があつてこそ

研究の道は決して平坦ではないと、あなたの話を伺っても思えます。でも辛さの中にも必ず楽しさが見えます。それは、好きでやっているから。でも、ただ好きだけでは続きません。どこかで独自の軸を持ち、世界が見えてきた時に本格的研

究が始まるのだと実感します。機械と生物は違うはずと思ひ見出した、ゆらぎ(柳田)、最初は先生からのテーマだった安定同位体の道具としての鋭さの発見(和田)、基礎研究を臨床や薬へとつなぐ道は基礎研究に徹するところから生まれるといふ発見(岸本・吉田)。研究者を通してこそ見える科学の真髄です。

Scientist Library_01 吉田光昭(→P204)



Scientist Library_02 柳田敏雄(→P226)

第五章 続く研究
Scientist Library

※Scientist Libraryは、本人のお話をもとに、編集部がまとめています。

本章の検索キーワードの使い方



検索キーワードをBRHホームページの検索ボックスに入れてみて下さい。関連情報が見られます。